

将来の自分につなげるための家庭科

社会問題となっているフリーター、ニート、無気力な大人の増加は、若年層の人生に対する意識・意欲の曖昧さのあらわれである。自分の人生について考える機会は少ない。

本題材に対する生徒の関心は個人差が大きいと考えられる。また、明確な意思を持った生徒でも、人生観は変化する可能性があるため、人生について考える機会は多いほうが良い。

今回は、卒業を目前に控えた3年生に、今までの家庭分野で勉強した内容をふまえて、今後の人生をどのように展開したいかを考えさせるために、実習形式の人生設計を行った。

1. はじめに

中学校家庭分野の目標は、「衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。」である。

しかし現場では、「なぜ家庭科を勉強するのがわからない。」という生徒が多くおり、学習意欲がわからない生徒がいる。学習したことを現在の生活だけではなく、将来にも活かしてほしい、未来の自分を意識しながら、常に行動を起こして欲しいという気持ちから、現在の生活を見直すためには、将来自分がどんな生活をしたいかを具体的に考えることが効果的であるのではないかと考えた。

また、家庭分野の評価の観点の趣旨においても、「これからの生活を展望して家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとする。」と記載がある。

そこで、楽しみながら将来の自分を考えさせるために、絵日記形式のワークシートに取り組みさせた。

2. 目標

未来の自分を具体的にイメージし文章と絵で表現させることで、自分の人生を主体的に考える動機付けを行うとともに、多様な人生観・価値観を尊重する姿勢を育てる。既存の学習内容の意義をふりかえり、今後の学習意欲を高める。

3. 本時の展開

本時の展開を表1に示す。授業の前半は、ワークシート(図1, 2)により展開する。まず、自分自身が人生において大切に思っていることは何か考えさせる。次に人生時計の話をし、中学3年生は人生のはじまりの時期であることを伝える。そのことにより、ある程度の計画性が必要であることを意識させる。

次に、自分が10年後、何を持っていたいかを具体的に記入させる。ここで、ある程度自分の将来の生活を考えることができる。最後に、図3のワークシートを用いて、将来の自分になりきり、絵日記を書かせる。

4. 評価方法

ワークシート、授業中の態度を対象とし、以下の4つの観点から総合的に評価する。

- ①多様な人生観・価値観の存在が把握できたか。
- ②人生全体における中学3年生の位置、残り時間の長さを考え、計画立案の重要性がわかったか。
- ③ライフイベントに対して自分自身の場合を考えることができたか。
- ④人生に対し肯定的な姿勢をもち、自分の将来像をイメージすることができたか。

5. おわりに

記入したワークシートは、採点后、封筒に入れて保存しておく(封筒には授業中に個人で住所を記入)。そして10年後、各家庭へ郵送し、生徒の手元に返す予定である。家庭分野で学んだことを意識しながら、毎日の生活を意識的に過ごして成長して欲しいと思う。

